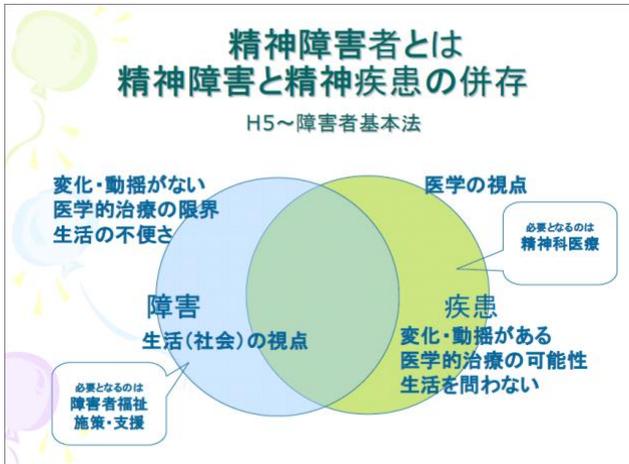


精神障害の理解と支援について

秋雨前線の到来で早くも秋の訪れを感じる、8月18日に第158回障害者地域生活支援研究会が開催されました。今回のテーマは「精神障害者の理解と支援について」です。

精神科医でもある北九州市精神保健福祉センター 所長 三井敏子さんと、同センター 技術支援担当係長 田村篤子さんに発言者としてお話し頂きました。

最初には三井敏子さんから、精神障害の理解と支援について、「こんな病気・こんな障害だから、こんな風にしましょう。」と題してお話し頂きました。



精神障害は、身体障害、知的障害と異なり、長く“疾患”として対応されてきました。平成5年に障害者基本法が制定され、精神障害として法的にも位置づけられましたが、現在でも、精神障害は少し特別に見られることがあります。しかし、どんな障害であっても、特別視することなく、障害・疾病名にとらわれすぎず、その人の生活歴等のアセスメントを大切にする。障害は一つの要素であるので、精神障害としてひとくくりにするのではなく、一人ひとりの存在として付き合っていくことが大切と話して頂きました。

その他に、地域精神医療・保健活動の歴史、精神疾患とはどんな病気であるか、精神障害のある方が身体障害や知的障害と大きく異なる点、病気や障害とうまくつきあうために、など、精神障害の概念的な整理を、精神障害と精神疾患の両面からお話し頂きました。

続いて、田村篤子さんに、精神障害のある方への具体的な支援について、実際に関わってきた事例から、日常生活や働くこと、対人関係での障害、支援する上での姿勢、医療との連携等についてお話し頂き、相談を中心とした社会資源として「夜間・休日精神医療電話相談」、「北九州市自殺予防こころの相談電話」をご紹介頂きました。



この他、精神科医 木戸幸聖氏の「患者さんと接するさいの10か条」、精神保健福祉センターが発行している「こころのバリアフリー宣言 ～精神疾患を正しく理解し、新しい一歩を踏み出すための指針～」という冊子などを紹介してもらいました。北九州市では精神障害に対する偏見がまだまだあるとのことで、心の問題を考えるきっかけとして、この冊子を読んで頂きたいとのことです。



質疑応答の中で家族の方から、「これまでに支援してもらいたいと思い相談したが、希望する支援にならなかったため、取り残された感があり、どこに相談したらよいか、分からない」との声が聞かれました。支援者側としても、現状で支援が十分だという認識はなく、今後、相談支援体制を充実していく必要があるとの話がありました。



最後に進行の黒岩さんから、「今回の支援研を通じて言えることは、精神障害に限定されることではないが、障害・疾病に対し、社会との接点や関係性の喪失が要因になることが多く、そのことを関係者・機関が認識して、支援や連携を構築していくのが重要である」と、まとめて頂きました。

精神障害と聞くと一般的には、分からないがゆえに「怖い」「危険では」といったイメージを持ってしまいがちですが、お二人に分かりやすくお話し頂き、精神障害に対するイメージが、少し変わったのではないのでしょうか。

尚、今回の参加者は56名。その内18名の新規の方にご参加頂きました。

※こちらの議事録は北九州市障害者自立支援協議会のホームページでもご覧頂けます。

<http://kitakyushu-net.shien-c.com/>

